

スミセイVitalityカップ
JVA第46回全日本バレーボール小学生大会 三重県大会
開催要項

主催 公益財団法人日本バレーボール協会／一般社団法人日本小学生バレーボール連盟
／読売新聞社
後援 三重県／公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団
特別協賛 住友生命保険相互会社
協賛 ゼビオグループ／デサントジャパン株式会社／株式会社ピーアンドピー浜松
協力 株式会社プレナス
主管 一般社団法人三重県バレーボール協会／三重県小学生バレーボール連盟／丸大食品株式会社
スミセイVitalityカップ
JVA第46回全日本バレーボール小学生大会都道府県大会実行委員会

1. 開催日 2026年6月20日(土) 女子の部1日目
 2026年6月21日(日) 女子の部2日目、男子の部、混合の部
2. 会場および競技日程 女子の部1日目
AGF鈴鹿体育館 [鈴鹿市江島台1丁目1-1]
開場・受付 午前9時00分
代表者会議 午前9時15分
開会式 午前9時30分頃
試合開始 開会式終了後速やかに行う
 女子の部2日目、男子の部、混合の部
安濃中央総合公園内体育館 [津市安濃町田端上野818]
開場・受付 午前9時00分
代表者会議 午前9時15分
開会式 午前9時30分頃
試合開始 開会式終了後速やかに行う
※ 開場したら、受付で構成メンバー表・ベンチスタッフ変更届(該当チームのみ)を提出すること。
※ 代表者会議には「三重県小連規約・規則」を持参すること。(スマートフォン等で閲覧可)
※ 開会式、表彰式および閉会式には選手6名以上が上下統一された服装(シューズは除く)で整列すること。
※ 準備ができしだい大会本部より試合開始時刻を案内する。
3. 参加資格 (1) 2014年4月2日以降に生まれた者で、2026年5月1日現在、国、公、私立の小学校および各種学校に在学していること。
(2) 公益財団法人日本バレーボール協会チーム登録規定に基づき、2026年4月1日以降、支部予選申込締切日までに、公益財団法人日本バレーボール協会-MRSに登録を済ませていること。
なお、三重県スポーツ少年団に加盟しているチームも、同様の手続きを済ませること。
※三重県(支部予選含む)大会中、他チームから登録し、その後移籍した者については、これを認めない。
4. 競技規則 (1) 2026年度公益財団法人日本バレーボール協会の定める6人制競技規則に準ずる。ただし、別に定める小学生バレーボール競技規則を採用する。
(2) 三重県小学生バレーボール連盟規則に準ずる。
5. 競技方法 (1) トーナメント形式で行う。
(2) 3位チームによる東海大会代表選考戦を行う。
(3) 男子の部は前年度新人大会1位および2位を第1～第2シード枠とする。ただし、男子支部予選の結果によりシードチームが決定しない場合は、大会競技委員長および男子支部長の協議により確定する。
(4) 女子の部は、前年度新人大会ベスト4のチームが所属する支部を第1～第4シード枠とする。

- (5) 混合の部は、2会場で混合支部予選を行い、各会場の1位を第1～第2シード枠とする。また、各会場2位を第3～第4シード枠とする。

6. 使用球 公益財団法人日本バレーボール協会が公認する人工皮革軽量4号球カラーボールを使用する。
- ・男子の部、混合の部 ミカサボール (V400W-L)
 - ・女子の部 モルテンボール (V4M5000-L)

7. チーム編成
- (1) チーム編成は、監督1名、コーチ2名まで、マネージャー1名と選手14名の計18名以内とする。
 - (2) 県大会に出場するチームは、監督、コーチ、マネージャーは同一団体に限り変更できる。選手については、同一チーム内で参加資格を満たしている者であれば、支部予選時と異なる選手に交代してもよい。ただし、同一チームであっても、他の部門に参加している場合には、大会期間中(予選から本大会)は他のチームの構成員として参加することはできない。同じ部門に2チームが参加している場合には、敗戦したチームのメンバーも含めて1チームに編成し直して申込みをすることができる。
※全国大会においても同一チーム内で参加資格を有している者であれば、県大会時と異なる選手に交代してもよい。
 - (3) 監督、コーチは成人(18歳以上で選手の引率責任を果たせる者)であること。また、ベンチスタッフの1名以上は、JVAベーシックコーチライセンス、日本小学生バレーボール連盟認定指導者または公益財団法人日本スポーツ協会認定バレーボールのスタートコーチ、コーチ1～4のいずれかの資格取得者でなければならない。また、試合時にはそれらを証明する証明書等を胸にさげていなければならない。
 - (4) 全国大会出場においても、指導者資格は(3)と同様となる。
 - (5) ベンチスタッフは、チームスタッフとしてJVA-MRSに登録され、かつ、宣誓書に署名した者に限る。(JVA-MRSに役員登録している者もチームスタッフとして登録が必要)
監督、コーチ、マネージャーの服装は短パン、タンクトップは不可とし、監督、コーチ、マネージャー章を各チームで用意し、必ず左胸に付けること。ただし、小学生がベンチスタッフとして入る場合、短パン、Tシャツを認める。Tシャツの色は他のベンチスタッフと異ってもよい。
 - (6) 成人のベンチスタッフは、日常子どもたちの健全育成を目指して指導にあたっていると実行委員会が認めた者であること。暴力、暴言、セクシャルハラスメント等、指導者として不適切な行為を行なっている者の出場は認めない。
 - (7) 他都道府県在住であって、新年度の登録の際に移籍登録した選手はベンチには3分の1以内とする。また、コート上には2名以内とすること。ただし、他都道府県在住であっても、前年度までに登録していればこの制限の対象とはならない。監督は試合開始までに、新年度移籍登録選手の番号を審判員と確認しておくこと。
 - (8) 混合の部では、コート内に男子および女子が常に1名以上いること。

8. 抽選会
- (1) 日 時 2026年6月7日(日)午後7時00分から
 - (2) 方 法 抽選会場での対面およびオンラインのハイブリット方式

9. 参加費等
- (1) 大会参加費 5,000円/1チーム
 - (2) 大会運営費 5,000円/1チーム
- ※ 合計10,000円をJVA-MRS大会申し込みのシステムを利用して納めること。
※ システムの利用が難しい場合は抽選会当日または大会当日に納めること。

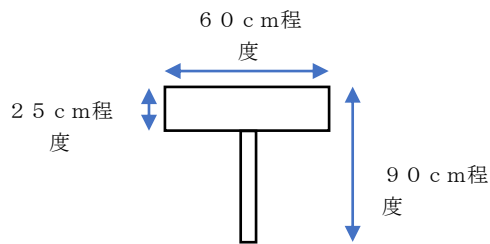
10. 申し込み
- (1) 支部長は、2026年6月10日(水)までに推薦チームの下記書類を指定されたドロップボックスに投入すること。
 - ・参加申込書(エクセル形式)
 - ・JVA-MRSチーム所属メンバー一覧(PDF形式)
※年齢算定は4月1日とすること。
 - ・ベンチスタッフの保有する資格の証明書の写し(PDF形式または写真)
 - (2) 大会プログラムに全チームを紹介するので、支部長は支部予選に参加した全チームの下記データを同様に納めること。
 - ・チーム紹介用写真(横長で撮影)
 - ・チーム紹介用選手名簿(エクセル形式)

(3) 大会プログラム予約申込は別途案内する g o o g l e フォームにて行うこと。

11. 審 判 ファーストレフェリーは公益財団法人日本バレーボール協会公認審判員および三重県小学生バレーボール連盟公認審判員で担当する。セカンドレフェリー、スコアラー、ラインジャッジ、点示員はチームで担当すること。
(長短2種類の笛、筆記用具を持参すること)

12. 表 彰 優勝(男・女・混合) 優勝カップ/全国賞状/読売新聞賞状/三重県賞状/
県協会賞状/県小連賞状
準優勝(男・女・混合) 準優勝トロフィー/全国賞状/読売新聞賞状/三重県賞状/
県協会賞状/県小連賞状
第3位(男・女・混合) 第3位盾/全国賞状/読売新聞賞状/三重県賞状/
県協会賞状/県小連賞状
※第3位の表彰は、準優勝で敗退したチームも含む。

13. そ の 他 (1) 選手の健康については、指導者、保護者が十分に注意して出場させること。
(2) 大会中の傷病の発生については、簡単な応急処置は行うが、以後の責任は負わない。
チームは必ずスポーツ安全保険に加入しておくこと。
(3) 大会プログラムは1部500円(予約のみ)で販売する。
(4) 大会上位チームから、2026年8月3日(月)~6日(木)に東京体育館他で開催予定の「スミセイVitalityカップJVA第46回全日本バレーボール小学生大会」に、男子、女子、混合の各1チームを推薦する。また、2026年7月25日(土)に北里アリーナ富士(静岡県)で開催予定の「第48回東海バレーボール連盟小学生大会」に、男子、女子、混合の各2チームを推薦する。
(5) 開会式にプラカードを持参すること。プラカードは縦25cm程度×横60cm程度、高さ90cm程度とすること。



大会テーマ

「想いをのせ 全集中だ この一本!!」



競技上の確認事項

大会競技委員長

1. 競技規則について

- (1) 2026年度 公益財団法人日本バレーボール協会の定める6人制競技規則による。ただし、別に定める小学生バレーボール競技規則を採用する。
- (2) 三重県小学生バレーボール連盟規則に準ずる。

2. 競技コートについて

AGF鈴鹿体育館は、メインアリーナ西側からA・B・Cコート、サブアリーナをDコートとする。
安濃中央総合公園内体育館は、メインアリーナ奥側からE・F・Gコート、サブアリーナをHコートとする。

3. 競技方法について

- (1) トーナメント形式で行う。
- (2) 3位チームによる東海大会代表選考戦を行う。

4. チーム編成について

- (1) 提出されたチーム構成表（エントリー用紙）は全試合に適用し、変更は認めない。
- (2) 試合をするチームが試合中、競技場に入場できる者は、当日エントリーされた者のみとする。ただし合同練習時、隣接コートへのボール侵入防止のため、チーム関係者のアリーナフロアへの立ち入りは認めるが、球出し等の指導は不可とする。

5. 試合球について

- ・ 男子の部、混合の部：ミカサ（V400W-L）
- ・ 女子の部：モルテン（V4M5000-L）

6. ベンチスタッフの服装について

- (1) ベンチスタッフはジャケットを着用するか、チームで統一された服装でなければならない。また、シャツのイン・アウトについてはチームの判断に任せるが、その場合ベンチスタッフ全員が統一されていなければならない。ただし、空調の無い会場においては試合中の防寒着の着用を認めるが、試合前後の挨拶時は統一した服装とする。
- (2) 監督がジャケットを着用し、その他のベンチスタッフが統一された服装であれば許可される。
- (3) 統一された服装であっても、タンクトップのような形状のシャツ類、短パン、ハーフパンツは許可されない。
- (4) 試合中は左胸部に規定の監督、コーチ、マネージャー章をそれぞれ付けなければならない。
- (5) 小学生がベンチスタッフとして入る場合は短パン、Tシャツを認める。Tシャツの色は他のベンチスタッフと異なってもよい。

7. 試合進行について

- (1) 試合開始時刻は、大会要項に記載してあるとおり第1試合のみ設定する。
- (2) 第2試合目以降は、競技委員の指示があるまでコート後方で待機する。競技委員によるコートチェック終了後、競技委員の指示によりベンチ入りし10分間の合同練習を開始する。
- (3) 合同練習は、隣接コートの試合に支障をきたさない範囲でボールの使用を認める。ただし、ネットを使用しての練習は禁止する。
- (4) 合同練習終了後、プロトコールに入る。また、全試合で公式練習を行う。
- (5) 試合の終了したチームは、速やかにベンチを空ける。また、キャプテンは記録用紙へのサインを済ませる。
- (6) 試合前後の挨拶は、ネットを挟んでの握手を行う。また、キャプテン、監督とレフェリーはフェアプレー

の精神で握手を行う。

(7) 試合の進行状況により、試合順やコートを変更する場合がありますので注意すること。

8. 試合中について

- (1) 監督、コーチ、マネージャーは、子どもの健全育成を目指す指導者としての自覚をもち、不適切な行為はもちろん、誤解を招くような行為も厳に慎むこと。
- (2) 監督は、自チームのアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。また、ベンチスタッフが、自然発生的に喜びの表現として偶発的に立ち上がる行為は許容範囲であるが、監督以外が毎回のように立ち上がったたり数歩前に出たりする行為は認められない。さらに、監督が相手を威嚇する行為は認められない。
- (3) 床に落ちた汗はコートの選手が拭くため、複数の選手にタオルを携行させること。
- (4) うちわ等については、セット間及びタイムアウト中のクールダウンに使用する場合にのみベンチへの持ち込みを許可する。
- (5) マスコットのぬいぐるみ、千羽鶴等) やメガホン等音響効果の為の用具の持ち込みを禁止する。ただし、選手の健康管理上必要なものは除く。
- (6) 水筒やスクイズボトル等は小さなかごに入れて保管し、直接床に置かないこと。
- (7) 携帯電話、スマートフォン、トランシーバー、タブレット、携帯ファン等の電子機器は、ベンチでの使用を禁止する。

9. 応援マナーについて

- (1) 応援マナーの厳守は監督の責任において徹底させる。相手への威嚇、審判団へのクレーム、あるいは類似した行為は慎み、積極的に感謝と称賛の意を表すように努めること。
- (2) 横断幕は、試合をしているチームのみが1枚掲出し、試合後直ちに撤去すること。掲出の際は、観客の視界を遮ることがないように手摺りの下部に紐等を使用して固定すること。(ガムテープ等粘着性のあるテープの使用は一切禁止)
- (3) のぼりは、試合をしているチームのみが掲出し、試合後直ちに撤去すること。掲出の際は、観客の視界を遮ることがないように観覧席の最後部に紐等を使用して立てること。(ガムテープ等粘着性のあるテープの使用は一切禁止)
- (4) 鳴り物(太鼓やラッパ等、大音量の出るもの)の使用やうちわ等用具類を叩いての応援は禁止する。
- (5) メガホンの使用及びメガホン同士を叩いての応援は認めるが、音量は常識の範囲内にとどめること。
- (6) 施設及び付帯の設備等を叩きながらの応援は禁止する。
- (7) カメラのフラッシュ撮影は禁止する。
- (8) その他応援マナーについては、大会競技委員長の指示に従うこと。

以上

審判上の確認事項

大会審判委員長

1. 競技規則について

- (1) 競技委員長の「競技上の確認事項」に従い行う。
- (2) 選手の健康と安全のためのタイムアウト、セーフティタイムアウトについて（以下：STO）
 - ※ STOは、選手の健康と安全のために適応されるものであることを再確認し、選手の給水や健康観察を最優先させること。
 - ① STO中は、ベンチ横からウォームアップエリアの間の位置に30秒間とどまること。
 - ② STO中は、ウォームアップはできない。
 - ③ チームスタッフの声かけは、健康観察のためのものである。
 - ④ STOの間、控え選手を含めた選手は、給水を優先することとし、モップ掛けを行わないこと。なお、モップをかける場合はチームのスタッフ（大人）であれば行うことができる。
 - ⑤ 第1、第2セットでは、リードしているチームが11点に達した時、第3セットは、リードしているチームが8点に達した時、チェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、第1セットと第2セットは、両チームが31点に達したときに適用し、その後は両チームが10点ずつ積み重ねた段階で適応する。また、第3セット目は、両チームが21点に達した時に適応し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。
 - ⑥ セーフティタイムアウトを2回適用する場合の取り扱いは次の通りとする。
（支部予選において、会場に空調設備がなく、選手の安全が確保できないとして大会実行委員が判断した場合には以下のように適用してもよい）
第1、第2セットでは、リードしているチームが7点と14点に達した時、第3セットは、リードしているチームが8点に達した時、チェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、第1セットと第2セットは、両チームが25点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、第3セット目は、両チームが21点に達した時に適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。
- (3) 靴紐を結ぶ場合は、試合進行の妨げとならないよう、ボールデット間に速やかに結ぶこと。なお、レフェリーに靴紐を結ぶことを申し出る行為は、ルール上の遅延行為にあたるため行わないこと。

2. コートワイピングについて

- (1) チームは、コートに入る複数の選手にワイピング用のタオル等を携行させ、床が汗等で濡れた場合は、まずコート内の選手が拭くように指導しておくこと。
- (2) 試合中床がひどく濡れた場合であっても、ラリー間でのモップの使用は、レフェリーの指示がある時のみとする。

3. スコアラー及びコートオフィシャル（ラインジャッジ・点示員）について

- (1) ファーストレフェリーは公認審判員が行う。セカンドレフェリーとスコアラーは、該当チームから出すこと。ラインジャッジと点示員は、該当チームから各4名を出すこと。該当するチームが2チームで行う時は、ラインジャッジと点示員が両チームから各2名ずつ割り振られるように配慮すること。
- (2) スコアラーは、スコアラーの経験があるなど、担当チームの責任において、確実にその任務を果たすことができる人員を選出すること。（選手・大人は問わない）
- (3) スコアラーは青色ボールペン（フリクションインク不可）と短い定規を用意し、使用すること。
- (4) コートオフィシャルは、担当チームの責任において登録選手のうち任務を果たすことができる人員を選出すること。なお、登録選手が少なく、点示員が低学年などの事情がある場合に限り、その補助として構成メンバーとして有効に登録されたチームスタッフがフロアに入ることを認める。それも出来ない場合には、保護者が入ることも認める。
- (5) スコアラーの処理に間違いが起らないよう、補助員としてスコアラーの隣にチーム関係者1名が座ることを認める。その際、ボール拭きなどセカンドレフェリーからの依頼にも協力すること。
- (6) コートオフィシャル含め審判団のマスク着用は、任意とする。
- (7) チームは、コートオフィシャルに給水ボトルを持たせるなど、健康と安全管理を徹底すること。STOにはすすんで給水するよう指導しておくこと。

4. レフェリーミーティングについて

各コートの試合開始前に記録席において、ファーストレフェリー、セカンドレフェリー、スコアラー、ラインジャッジ及び点示員によるミーティングを行う。その際、必ず全員がスコアラーズテーブル前に集合すること。

5. その他

(1) 中断の要求について

- ① タイムアウトの要求は、レフェリーに対しハンドシグナルを明確に示すこと。
- ② 選手交代は、選手交代ゾーン内に確実に入るよう選手に指導すること。
- ③ 複数の選手交代を要求する際は、同時に（間を空けず連なって）選手交代ゾーンへ入るよう、選手に指導すること。

(2) 暴力・暴言などの行為について

- ① ベンチスタッフ及び選手によるコート内外における暴力、暴言等については厳に慎むこと。万一、当該行為があった場合にはルールに則り制裁する。

(3) 感染症対策に関する取扱いについて

- ① コアシートへのサインに用いる監督・チームキャプテンのボールペンは、スコアラーのを使用しても、チームで準備したものを使用しても良いこととする。（フリクションイン不可）
- ② ラインジャッジフラッグは、連盟で用意するが担当チームのものを使用しても良いこととする。

以上

大会運営上の確認事項

大会総務委員長

1. 地震等の非常時に備え、各自、各チームは非常口や避難経路を事前に確認しておくこと。
2. 当該施設は大会関係者以外の方も利用している複合施設であるため、施設の利用ルールを厳守するとともに、他の利用者に迷惑がかからないよう行動すること。
※トイレ用スリッパは必ず元の位置に戻すこと。
3. 開場を待つ間は入口付近での滞留を避け、他の利用者の通行を妨げないよう配慮すること。
4. 大会中は、要項書に記載のある時間を遵守し、余裕をもって行動すること。
※競技及び審判が終了したチームは入賞チームを除き、順次解散してもよい。
5. 開場したら、チーム関係者は大会本部からの案内に従い入館を開始し、観客席の指定された区域に移動すること。
チームの担当者は大会本部が指定する受付窓口にて手続を行うこと。使用する観客席の座席は、大会本部が指定する区域を応援スペースとして空けること。
6. アリーナに入場する際は必ず屋内用シューズに履き替えること。外履きは各チームでまとめて管理することとし、下駄箱は使用しないこと。
7. 代表者会議は大会本部が指定する場所で行う。
8. 開会式、表彰式及び閉会式はメインアリーナで行う。
9. エントランスや共用部、会場周辺での場所取りやミーティング、練習等を行わないこと。ボールかご等試合に使う用具やまとめた外履きを共用部に置かないこと。
10. ゴミは各自、各チームで持ち帰ること。帰る際には座席周辺のゴミや飲料水等による汚れがないかを確認すること。館内のごみ箱は使用しないこと。
11. 忘れ物に注意し、最後に必ず大人が確認すること。

競技中はもちろん、それ以外の大会中の行動についてもグリーンカードの進呈対象とする。

以上